JA静岡経済連

KEIZAIREN 情報3

2021.03 NO.1278

安全・安心・新鮮でおいしい静岡県産の農畜産物をお届けします。

組合員の営農と生活を燃料で支える「総合エネルギー課」

JA静岡厚生連へ静岡こしひかり贈呈

第37回静岡県花の展覧会

Main topics

組合員の営農と生活を燃料で支える「総合エネルギー課」……01

topics&news

コロナ禍における本会の取組報告 ……03

仕上り、貯蔵性を競う
第55回静岡県貯蔵ミカン品評会
第41回静岡県中晩生柑橘品評会（ポンカンの部）
……03

花の都しずおかをPR
第37回静岡県花の展覧会 ……04

フラワーアートプロジェクト
「HANA、贈ろう。」キャンペーン……04

コロナ禍での代替策
令和2年度農機大展示会代替キャンペーン結果報告…05

産地化取り組み発表
静岡県産官学技術交流事業報告会……05

WEBでリモート就業体験
令和2年度インターンシップ ……05

営農支援だより

落葉果樹の振興……06

最新研究紹介 農林技術研究所だより

袋かけによる中晩柑〝はるひ〟の着色促進 …07

お知らせ

建設部からのINFORMATION……09
あぐりんく静岡からのお知らせ ……09
キャラバン隊活動報告 ……10

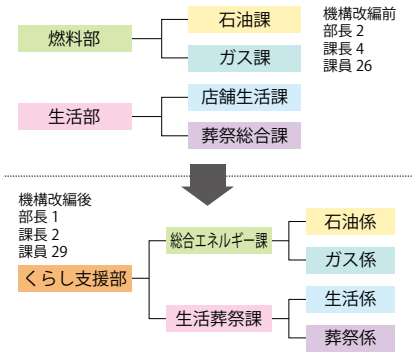
Main topics

組合員の営農と生活を燃料で支える「総合エネルギー課」

Ⅰ エネルギー部署の一本化

令和２年度の機構改編により新設された総合エネルギー課は、昨年度まで燃料部で２課に分かれていた石油課とガス課が１課となり誕生しました。また部についても、本年度からは生活部と一本化し「くらし支援部」として組合員のくらしや営農を支える部署となりました。その組織の改編は表１のとおりです。今号では組合員の営農と生活を燃料で支える総合エネルギー課についてご紹介します。

表1　生活関連組織の改編



Ⅱ 総合エネルギー課の事業

1　最近5カ年の実績（表２）

石油は、平成27年度１６６億円の事業量でしたが、令和元年度では13％増の１８８億円をあげました。ガス事業では、平成27年度38億円の事業量でしたが、令和元年度では11％減の34億円となりました。石油とガスを加えた総合エネルギーとしては、平成27年度に比べ、令和元年度は２２２億円で９％増の事業量を確保できました。

表２　最近５年間の燃料事業量の流れ

（億円）

事業名	H27	H28	H29	H30	R1
石油事業	166	167	203	209	188
指数	100	101	122	126	113
ガス事業	38	36	40	38	34
指数	100	95	105	100	89
合計	204	203	243	247	222
指数	100	100	119	121	109

Ⅲ 石油事業

1　石油をめぐる情勢

石油は、新型コロナウイルス感染症拡大により、世界的に経済の減速が進み、原油価格が下落したため、ガソリン・重油・軽油・灯油等全油種で単価と取扱量が下がりました。

2　令和元年度石油事業の実績（表３）

石油は、茶況の低迷等により重油の取扱数量が前年を下回りました。また、単価も世界的な経済減速感から原油価格が下落し、その他の油種も下落したことから、事業実績は前年を10％も下回りました。品目別には、ガソリン15％、軽油３％、重油５％、灯油１％となりました。

3　石油事業の主な事項

①ＪＡＳＳでは、揮発油拡販に向け県下ＪＡグループ統一企画として、夏期キャンペーンを開催しました。

表３　石油事業実績

（千万円）

事業品目名	R1	H30
レギュラーガソリン	843	995
軽油	389	401
重油	389	408
灯油	162	164
ハイオクガソリン	69	81
その他資材	29	37
潤滑油	2	2
計	1,883	2,088

冬期には暖房燃料拡販のため、灯油キャンペーンを展開しました。

②油外収益を拡大して、ＳＳ収支の改善を図るため、軽板金作業など新たな油外商品の提案をすすめ、従来からのタイヤ、オイルなどのセールを拡大させました。

③ＳＳ事業所の階層別研修会を開催し、ＳＳスタッフの資質向上に取り組みました。

④営農用免税軽油の取扱を拡大するため、ＰＲ資料を活用して未使用組合員への啓発活動を推進しました。

▲JASS-PORT南伊豆

Ⅳ ガス事業

1 ガスをめぐる情勢

ＬＰガスは、新型コロナウイルス感染症拡大により、飲食店向けや学校給食用等の業務用需要が低調で、取扱量はおよそ10％減少しています。また、世界経済の減速感から、輸入価格が下落したため、取扱金額は減少しています。

2 令和元年度ガス事業の実績（表４）

ＬＰガスは、需要の減退等により、取扱数量が前年を下回りました。また、単価も経済の低迷により下落したことから、事業実績は前年を12％下回りました。品目別には、ＬＰガス個別用12％、同ローリー用17％、同営農用10％下回りました。

3 ガス事業の主な事項

①ＬＰガス燃料転換運動を展開し、ＬＰガスを利用した給油機や暖房機器などへの転換を推進して、ガス消費量の拡大に取り組み、これまでに燃料転換４３１件の実績をあげました。

②ＬＰガス事業拡大のため、クミアイプロパン・チャレンジレースを展開し、ふれあい活動と提案推進により、ＬＰガスの拡販に取り組みました。

③ガス保安業務主任者研修会を開催し、ＪＡグループでの情報の共有化と、ＬＰガス事業の更なる強化を図りました。

④災害時に強いＬＰガスのメリットを生かして、ＪＡ介護施設に緊急用電源を導入するなど、ＪＡ関連施設等に対して、ＬＰガス発電機の普及推進に取り組みました。

表４　ガス事業実績

（百万円）

事業品目名	R1	H30
ＬＰガス（個別）	176	200
ＬＰガス（ローリー）	77	93
供給機器	53	51
ガス器具	18	22
ＬＰガス（営農用）	9	10
その他ＬＰガス	3	4
計	336	380

▲大井川プロパンガス充填所

Ⅴ これからの燃料事業

燃料事業の自己改革への取り組み計画は次のとおりです。

1 石油事業

営農用の燃料の啓発と拡販に取り組む。

①ＪＡ、農家組合員に向けて、営農用免税軽油の取扱を啓発する。

②免税軽油の未扱い組合員に対し啓蒙推進を行う。

2 ガス事業

ＪＡ関連施設を中心に、災害時にも活用が可能なＬＰガス機器の設置拡大に取り組む。

①災害時に活用できるＬＰガス器具やガス機器の情報を提供し、災害時の対応方法の研修を行う。

②本会建設部と連携し、ＪＡグループ関連施設の新規・改修情報等をもとに、ガス発電機等の啓発推進を行う。

▲車検整備施設を備える「JASS-CARSいとう」

Ⅵ おわりに

新型コロナウイルスの感染拡大により、発令された緊急事態宣言で、移動制限等の措置を受け、国内外の経済活動は停滞状況にあります。組合員の営農と生活を燃料で支える総合エネルギー課は、組合員の立場に立って、厳しい状況の中を邁進してまいりますので、よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

▲クミアイプロパン

▲ガス発電機

コロナ禍における本会の取組報告

一、JA静岡厚生連へお米贈呈

1月13日、静岡県米麦流通連絡協議会（事務局：食糧課）および本会は、県農業会館のJA静岡厚生連を訪れ、県産コシヒカリを医療従事者へ贈呈しました。

贈呈式では本会加藤敦啓代表理事理事長が、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、医療の最前線にあたる従事者に感謝の気持ちを表し、厚生連荒田庄治代表理事理事長へ静岡こしひかりのメッセージライス（150キロ分）を贈りました。

贈呈したお米は、草薙神社（静岡市清水区）で疫病終息祈願の祈祷を受けたもので、封を開ければお米に手を触れずに、そのまま炊けるよう無洗米処理し2合ずつ袋詰めしました。2合袋のパッケージには医療従事者への感謝のメッセージを記しました。

二、保健所へみかん贈呈

1月26日、柑橘果樹課は、藤枝市の中部保健所を訪れ、新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応する保健所職員への敬意を表し、第55回静岡県貯蔵ミカン品評会に出品されたみかんを贈呈しました。

贈呈式では、本会石川和弘常務理事がみかんを贈り、中部健康福祉センター医監の岩間真人保健所長から感謝状を受け取りました。贈呈したミカン63箱は県内の保健所9か所に配布されました。

三、高校生へいちご贈呈

2月5日、静岡県いちご協議会（事務局：野菜花卉課）は、第39回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会に出場する浜松市立高校女子ソフトボール部へ静岡いちご「紅ほっぺ」と「きらぴ香」計80パックを贈呈しました。贈呈式では、みかん園芸部白山佳博部長から同校部員らにいちごを手渡しました。

同協議会ではコロナ禍で活動が制限される中、全国大会に出場する高校生を応援しようといちごの贈呈を昨年12月から取り組んでいます。

▲JA静岡厚生連へ静コシ贈呈

▲保健所へ品評会みかん贈呈

▲浜松市立高女子ソフトボール部へいちご贈呈

仕上り、貯蔵性を競う

第55回静岡県貯蔵ミカン品評会 第41回静岡県中晩生柑橘品評会（ポンカンの部）

1月21日、静岡県柑橘振興基金協会と本会（柑橘果樹課）は、県農業会館で「第55回静岡県貯蔵ミカン品評会」および「第41回静岡県中晩生柑橘品評会（ポンカンの部）」を開きました。

県産貯蔵ミカンの貯蔵技術と中晩生柑橘の栽培技術の向上が目的。

貯蔵ミカンは257点、ポンカンは38点が出品され、農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門の塩谷浩カンキツ研究領域長ら審査員19人が、形状や玉ぞろいなどの外観と、肉質・食味の内容、鮮度充実の貯蔵性を審査しました。

上位入賞者は次のとおり（敬称略・カッコ内はJA名）。

【貯蔵ミカン品評会】

- 農林水産大臣賞　髙橋　誠（JAみっかび）
- 農林水産省生産局長賞　鈴木信逸（JAみっかび）
- 農林水産省関東農政局長賞　石田孝光（JAみっかび）
- 静岡県知事賞　石橋高雄（JAみっかび）
- 静岡県経済産業部長賞　山本康之（JAみっかび）
- 日園連会長賞　西川雅祥（JA静岡市）
- 静岡県京浜地区果実流通協議会長賞　磯田雅己（JAみっかび）

【中晩生柑橘品評会（ポンカンの部）】

- 優秀賞　立川知多（JAしみず）

花の都しずおかをPR
第37回静岡県花の展覧会

1月15日、静岡県花卉園芸組合連合会（事務局・野菜花卉課）は、静岡市のツインメッセ静岡で「第37回静岡県花の展覧会」を開きました。

花きの生産栽培技術の改善と品質向上、消費者に本県産花きの魅力を発信し、消費拡大につなげることが目的。

県内各地から、キク、バラ、ガーベラなど7部門で合計226点が出品され、花の形質などを厳正に審査しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためツインメッセ内での展示や販売は行わず、市内の商業施設「アピタ静岡店」にて金賞20点を1月16日・17日の2日間展示し、多くの来場者を魅了しました。

上位入賞者は次のとおり（敬称略、カッコ内はJA名と部門名）。

【金賞】
- 1席 杉浦 浩文（JAとぴあ浜松・ガーベラ）
- 2席 八木 勇人（JA遠州夢咲・ばら）
- 3席 杉山慎太郎（JAしみず・トルコギキョウ）
- 4席 宮津 正男（JAとぴあ浜松・きく）
- 5席 大村 温績（鉢物）
- 6席 鈴木 秀平（JAとぴあ浜松・一般切花）
- 7席 伊藤 雅樹（JAとぴあ浜松・枝物）
- 8席 藤野 友弥（JAとぴあ浜松・ガーベラ）

▲審査会の様子（ツインメッセ静岡）

▲商業施設での金賞品展示（アピタ静岡店）

フラワーアートプロジェクト
「HANA、贈ろう。」キャンペーン

ふじのくに花の都しずおか推進協議会（構成団体：静岡県、静岡県花卉園芸組合連合会、静岡県鉢物生産振興会、静岡県花き新品種育成研究会、静岡県花き市場連合会、NPO法人花の都しずおかフラワーネットワーク会議、静岡県花の会連合会、静岡県華道連盟）は、12月から2月にかけて県内5か所で「フラワーアートプロジェクト『HANA、贈ろう。』キャンペーン」を開催し、本会（野菜花卉課）が協力しました。

今回の取組みでは静岡県産の花で飾った「HANA翼」を県内5会場に期間限定で展示しました。また、同期間中には来場客が撮影した写真をSNS（インスタグラム、フェイスブック）にハッシュタグ「#87096（花贈ろう）」を付けて投稿すると抽選で賞品が当たるキャンペーンを開催しました。

▲HANA翼（カーネーション・函南）

期　　間	花	場　　所
令和2年12月11日～13日	ガーベラ	JR浜松駅コンコース
令和2年12月18日～20日	トルコギキョウ	富士山静岡空港
令和3年 1月 9日～11日	キク	静岡県富士山世界遺産センター
令和3年 1月22日～24日	カーネーション	道の駅・伊豆ゲートウェイ函南
令和3年 2月12日～14日	バラ	JR静岡駅コンコース

▲写真を撮る来場客（JR静岡駅）

コロナ禍での代替策

令和2年度農機大展示会代替キャンペーン結果報告

農業機械課は、新型コロナウイルス感染症拡大により開催を中止した令和2年度農業機械大展示会の代替キャンペーンを令和2年6月から8月に開催し、併せてセールスコンテストを実施しました。本キャンペーンでは、各メーカーの機種を紹介するチラシを作成し、JAの農機センターなどで配布、本会ホームページを活用しPRしました。セールスコンテストは、顧客サービス向上、JA農機事業の活性化を目的にJA職員を対象として開催しました。静岡提案型式の部、点数表彰の部、新人賞の部の3部門を設定し、販売点数の多い上位者へ表彰を行いました。

上位入賞者は次のとおり（敬称略・カッコ内はJA名）。

【静岡提案型式表彰の部門】
- 第1位 経済連理事長賞
  望月　剛（JA富士宮）
  川原淳史（JA大井川）

【点数表彰の部門】
- 第1位 経済連理事長賞
  栗原博樹（JA三島函南）

【新人賞の部門】
- 第1位 経済連理事長賞
  木村　稜（JA遠州夢咲）

産地化取り組み発表

静岡県産官学技術交流事業報告会

1月19日、静岡県産地技術課題解決研究会（事務局：生産振興開発課）は、県農業会館で、令和2年度静岡県産官学技術交流事業報告会を開きました。新型コロナウイルス感染症拡大対策によるWEBでの参加者を含めおよそ80人が参加しました。

報告会では、県とJA全農がスマート農業の取り組みなどについて講演し、次いでJA大井川、JA遠州夢咲、JA富士宮、JA御殿場、三方原馬鈴薯共販運営委員会がそれぞれ課題と取り組みについて報告しました。

▲石川和弘会長（本会常務理事）より開会の挨拶

WEBでリモート就業体験

令和2年度インターンシップ

人事教育課は、就職活動中の学生に就業体験を通じて本会の事業内容や役割を知ってもらうため、大学生を対象としたインターンシップを12月から2月にかけて計6回行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりWEB会議システムを利用し、学生らは全員リモートで参加しました。

12月と1月に開催したインターンシップでは「静岡県の農畜産物の消費拡大について考えてみよう！」をテーマに学生たちに事前に「茶の販売促進」を課題として配布。茶業課と流通開発課職員が講師を務め、参加した学生たちはそれぞれの考えを発表し、意見交換を行いました。当初は1月までの全4回開催予定でしたが、全ての回で満員となったため、2月16日に追加で開催し、東京事務所職員が講師を務めました。

人事教育課は「本インターンシップは、事業を知ってもらう目的で開催したが、学生の豊富なアイデアに触れることで、いつもと異なる目線からの事業展開へのヒントを得ることができたと思う。また、本年は新型コロナの影響によりリモートでの開催で、例年の学生たちに集まってもらう開催に比べ運営の難しさを感じた一方、これまで日程の都合や遠方で参加が難しかった学生にも参加してもらえたことは良かった」と振り返りました。

▲参加した学生らへ本会概要を説明（人事教育課）

▲学生との意見交換（茶業課・流通開発課）

営農支援だより

作物・産地・営農・技術・
資材などの情報をお届けします。

落葉果樹の振興

本県の果樹といえば「青島温州」に代表される温州みかんが思い浮かぶのではないでしょうか。温州みかんは本県の果樹産出額の8割以上を占め、本県果樹を支える主要品目であることは間違いありません。一方で、本県は温州みかんのほか、中晩柑や落葉果樹等の多様な果樹が栽培されている地域でもあります。

本県の落葉果樹は、カキ、イチジク、キウイフルーツを中心に、地域によりナシ、モモ、ブドウなども栽培されており、小さいながらも特徴的な産地が形成されています。

本会が事務局を務める「静岡県落葉果樹振興協会」では、県内における落葉果樹の振興・発展に寄与することを目的に、前述の品目を含めた8つの専門部会を設置しています。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業が中止を余儀なくされましたが、生産、流通、組織体制の強化などに向けた様々な活動を行っています。

栽培研修会

静岡県落葉果樹振興協会では、栽培技術講習による安定的かつ高品質な果実生産を促すことを目的に、生産者や農協技術員、普及指導員等を対象とした栽培研修会を開催しています。

ナシ栽培研修会では、静岡県農林技術研究所果樹研究センターの研究員を講師に招き、病害(黒星病、萎縮病)やせん定に関する講義や実習、「静電風圧式受粉機」の研究成果報告や実演も行われました。

「静電風圧式受粉機」の実演
(授粉作業の省力化と使用花粉量削減が期待される)

また、九州地方を中心に県内ナシ園地でも発生している発芽不良(発芽・開花の遅延や不揃い、花芽の枯死など)に関する情報提供も行われました。この発芽不良は、温暖化による秋冬季の高温やこの時期の施肥等で樹体内にチッソが取り込まれることにより、耐凍性が十分に高まらないまま凍害に遭うことが発生の主な要因であることが明らかになっており、県内園地における発芽不良に対応した施肥体系の確立が望まれます。

果実品評会

栽培研修会に加え、生産物の品質改善と生産者の意欲及び技術の向上を図ることを目的とした果実品評会を開催しています。本年度もモモ、ナシ、イチジク、ブドウで果実品評会を開催し、形状や色沢などの外観と、食味や糖度などの内容を審査、上位入賞者を決定しました。

本年度は温暖化による開花の遅延や不揃い、長梅雨とその後の高温・乾燥などの影響もあり、栽培環境に恵まれた年とはいえませんでしたが、生産者の素晴らしい技術と努力もあり、高いレベルの出品物が揃いました。生産者に敬意を表するとともに、今後とも高品質果実の生産に御尽力頂き、消費者の期待に応える果実を届けて頂きたいと思います。

果実品評会の様子
(静岡県いちじく果実品評会)

今後に向けて

このほかにも静岡県落葉果樹振興協会では、落葉果樹に関する病害虫防除や管理のポイントをまとめた栽培暦や苗木の植え方チラシの作成・配布、果実の有利販売に向けた販売対策会議などを行っています。

本年度は、近年の急激な気象変動や新型コロナウイルス感染症の影響もあり、思うような栽培管理・販促活動ができない面がありました。温暖化に対応した栽培技術の導入や新しい生活様式に合わせた販促活動の検討等が必要になってきます。

今後も、本県落葉果樹の更なる振興・発展に寄与できればと思います。

(柑橘果樹課 係長 太田 知宏)

最新研究紹介
農林技術研究所だより

袋かけによる中晩柑〝はるひ〟の着色促進

私が紹介します！

静岡県農林技術研究所
伊豆農業研究センター
生育・加工技術科 研究員
山田晋輔

一 はじめに

伊豆地域では、年間を通して温暖な気候を活かし、中晩生柑橘の生産が盛んに行われています。特に、ニューサマーオレンジの名称で親しまれている〝ヒュウガナツ〟は、生果だけでなく、その果皮や果汁を利用した加工品も多く開発され、伊豆の観光資源として必要不可欠な商材となっています。

しかし、〝ヒュウガナツ〟の出荷期は4月下旬以降になることから、産地では、観光客の需要が見込まれる2月の河津桜まつりの時期に販売可能な新品種〝はるひ〟の導入が進みつつあります。〝はるひ〟は農研機構によって興津46号と〝阿波オレンジ〟を交雑して育成された品種で、橙黄色の果皮を持ち、〝ヒュウガナツ〟に似たさわやかな風味が特徴的な中晩柑です（図1）。カワヅザクラの開花とともに早い春を感じさせてくれることから、産地では、〝はるひ〟を「いずのはる」という商標名で販売しており、平成30年度には、県が認定する「しずおか食セレクション」にも認定されています。

図1 “はるひ”の果実

〝はるひ〟の栽培上の問題として、収穫期の2月になっても果皮の一部に緑色が残る果実が発生し、商品価値を下げることが挙げられます（図2）。そこで、果実全体を均一な橙黄色の果皮にする技術として、「袋かけ」による着色促進効果の検証を行いました。

図2 果皮に緑色が残る“はるひ”

二 「袋かけ」による着色促進

柑橘では、葉に覆われ、光に当たらない部分の果皮は、緑色が薄くなることが知られています。この現象に着目し、果実全体に袋をかける有袋栽培により、果皮の着色にどのような影響を及ぼすのか検証しました。

また、袋かけ資材には様々な色と種類があることから、白色テトロン製果実袋「商品名：サンテ（東洋殖産㈱製）」（以下：テトロン袋）、白色紙製果実袋「商品名：オレンジ39号止入（小林製袋産業㈱製）」（以下：白色袋）、茶色紙製果実袋「商品名：オレンジ9号止無（小林製袋産業㈱製）」（以下：茶色袋）の3種類を用いて、袋の違いによる影響についてもあわせて調べました（図3）。

図3 試験に供試した袋かけ資材

11月上旬から収穫までの間、3種類の袋かけ資材を用いて果実全体を

処理区	着色歩合	果肉歩合	糖度（Brix%）	酸含量（%）
テトロン袋	8.3 b[z]	0.72	11.3	0.98
白色袋	8.9 a	0.68	11.3	1.08
茶色袋	8.5 ab	0.71	11.2	1.02
無 袋	7.8 c	0.72	11.2	1.05
有意性[y]	**	n.s.	n.s.	n.s.

[z] holmの多重比較で同一符号間に5%水準の有意差なし
[y] 分散分析により、**は1%水準で有意差あり、n.s.は有意差なし

表1 袋かけ資材別の着色歩合および果実品質

覆い、果皮の緑色の抜けを表す着色歩合（完全着色を10とし、0～10の11段階で評価）と糖度、クエン酸含量などの果実品質について調査を行いました。

結果として、袋をかけたすべての処理区は、袋をかけなかった無袋区と比較して、果皮の緑色が抜け、着色歩合が高くなる傾向がみられました（表1）。また、茶色袋で覆うと〝ヒュウガナツ〟のような黄色い果皮となり、テトロン袋と白色袋で覆うと茶色袋をかけたものよりも赤みが強く、袋をかけていない果実と同じ橙黄色になりました（図4）。果実品質（果肉歩合、糖度、酸含量）については、袋の有無や種類にかかわらず、差はみられませんでした（表1）。本試験の結果をまとめると、「袋かけ」により、着色歩合が向上し、袋かけ資材の違いにより、果皮色が異なることが明らかとなりました。

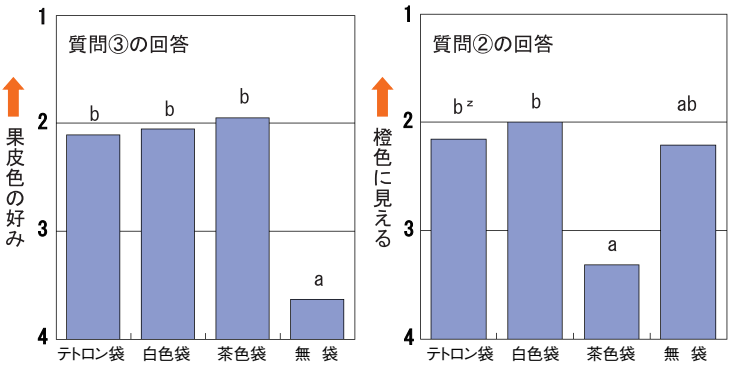
図4　袋かけ資材の違いによる“はるひ”の果皮色の違い

三　果皮色についてのアンケート調査

上記の試験に供試した果実を、毎年2月上旬に伊豆農業研究センターで開催される公開デーの会場に展示し、来場者28人に果実の着色に関するアンケート調査を行いました。①果皮色に違いがあるか、②果皮が橙色に見える果実はどれか、③一番好みの果実はどれかの3項目について回答してもらい、②と③の質問については、1～4位まで順位をつけてもらいました。

まず、①の質問には、68％の方が違いがあると回答しました（図表略）。次に、②の質問にでは、テトロン袋と白色袋をかけた果実が橙色に見えるという回答が多く、平均順位も高くなりました（図5右）。最後に、③の質問では、袋をかけた3処理区の果実は、袋をかけていない緑色が残った果実と比較して、平均順位は高く、いずれの処理区でも同程度に好ましい結果となりました。（図5左）。

これらの結果から、果実の果皮色は橙色でも黄色でも構わないが、緑色が残っている果実の評価は低いということが示され、「袋かけ」により商品価値を高められることが明らかとなりました。



[z] Wilcoxon の順位和検定により、同一符号間に５％水準で有意差なし

図5　アンケート調査②･③の順位結果（n=28）

四　おわりに

以上の結果を踏まえ、産地では、〝はるひ〟の本来の果皮色である橙黄色になる白色の袋かけ資材のうち、伸縮性で作業効率が良いテトロン袋の導入が進んでいます。今後、「袋かけ」が利用されることで外観品質が向上し、新たな伊豆特産品種として〝はるひ〟のブランド化が進むことが期待されます。

図6　テトロン袋をかけた“はるひ”の様子

連絡先 賀茂郡東伊豆町稲取3012
静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター生育・加工技術科
agriizu@pref.shizuoka.lg.jp

建設部からのINFORMATION

担当　建設部　054-284-9523

ＪＡ御殿場

資産管理事業による賃貸集合住宅の取り組み
賃貸集合住宅完成見学会

1月22日から24日の3日間、JA御殿場は組合員の土地活用による賃貸集合住宅の完成見学会を本会及び住宅メーカーと連携して行いました。今回の集合住宅は立地条件も良く、賃貸住宅とは思えない様な高いグレードの仕様となっており、西側の住戸からは目の前に大きな富士山が眺望でき、3階建て9戸全てがすぐに契約となりました。なお、計画敷地は不整形で集合住宅だけでは広すぎたため、道路からの進入部分を最低限にして奥まった部分を活用し、道路沿いに残った土地を配することで、将来的な残地の活用を考慮して建設しました。

この様に本会建設課では立地条件や土地の形状、将来的な計画の可能性等、様々な角度から計画を検討し提案を行っています。

▲見学会のようす

【営農ナビ】　イントラ版として情報発信していきます！

あぐりんく静岡からのお知らせ

県内JA限定　生産・事業推進に役立つ情報が満載!!

農産物安全分析センター
分析メニュー、申込書、分析フロー（手順）を掲載しています。分析の際はコチラから！

経済連肥薬通信
更新　**経済連肥薬通信3月号**
経済連コンサルタントによる技術情報

野菜・花き情報
指定産地野菜報告など随時掲載しています。

販売情報
産地情勢
トマト、いちご、レタスの産地からの情報を掲載しています。

●イントラから利用できます。

～他にも、農畜産物別の情報なども充実～

担当：生産資材部 生産振興開発課（TEL 054-284-9729）

キャラバン隊活動報告
ふれあいから学ぶ接客研修

令和2年11月から1月までの間、人事教育課は「令和2年度営業・接客研修（キャラバン隊）」を実施しました。この研修は本会2年目の職員が対象で、研修を通じて今後の担当業務や本会の事業に活かすことが目的です。

研修先は本会が経営する外食販売事業所「駿府の肉処　静岡そだち」で、1人2回実践研修を行いました。2回の研修のうち1回目は昼の部で、2回目は夜の部で接客のあり方を学びました。

人と人との距離が遠くなっているといわれる今の時代にお客様とふれあい、言葉を交わすことが接客の基礎・基本であると改めて感じる研修となりました。

研　修　計　画		
氏　　名	所属部署	写真番号
鈴木　丈二郎	営農資材課	①
山崎　智也	肥料農薬課	②
渡辺　直美	肥料農薬課	③
池田　和	畜産課	④
望月　悠未	総合エネルギー課	⑤
川嶋　翔太	一級建築士事務所	⑥
望月　琴音	畜産課	⑦
齊藤　貴海	中部みかん園芸課	⑧
佐藤　弘樹	中部肥料農薬課	⑨
中村　勇喜	西部みかん園芸課	⑩
山田　陽平	西部肥料農薬課	⑪

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

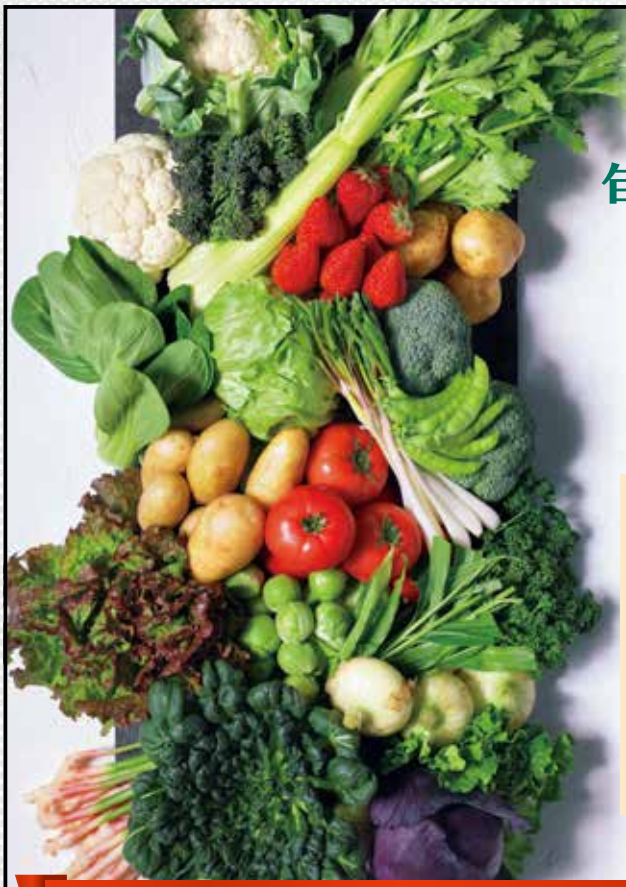
⑧

⑨

⑩

⑪

JA静岡経済連
KEIZAIREN情報
毎月1回発行　編集発行／企画　管理課 〒422-8620 静岡県経済農業協同組合連合会　静岡県静岡市駿河区曲金3丁目8番1号
TEL.054(284)9708　FAX.054(284)9780　http://jashizuoka-keizairen.net　E-Mail:keizairen@kei.ja-shizuoka.or.jp



静岡やさいをおいしく食べる♪

旬野菜の簡単レシピ公開中

料理ブログサイト「レシピブログ」で
県産食材を使ったレシピを
静岡クッキングアンバサダーがレシピブログと
インスタグラムにて発信中！
旬の野菜を簡単・おいしく食べられるレシピです。

安心・安全で新鮮♪ 静岡県の旬野菜が豊富な理由

- 温暖な気候と変化に富んだ自然環境を利用して数多くの農産物を生産
- 冬に出荷される野菜の種類が豊富
- 生産者の高い栽培技術と高品質な農産物へのこだわり

レシピブログで紹介する品目

セルリー	ブロッコリー	トマト	レタス

新タマネギ	砂糖豌豆	ミニトマト	エシャレット

静岡県農協青果物消費宣伝事業推進委員会では、コロナ禍で内食需要が増える中、料理ブログサイト「レシピブログ」とコラボし、県産野菜を使ったレシピを作成、公開しています。この取り組みでは10人の静岡クッキングアンバサダーを野菜大使に任命し、県産農産物のPRを行っています。
実施期間は、令和3年3月までとなりますが、期間終了後もレシピは公開されていますので、県産野菜を使った料理にぜひご活用ください。レシピブログのサイトへは右のQRコードからアクセスできます。

レシピブログはこちら⬇

担当：みかん園芸部 野菜花卉課　（TEL 054-284-9714）